

平成 28 年 1 月 5 日

鹿児島大学病院 リハビリテーション科で

入院治療を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院リハビリテーション科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

脳卒中片麻痺上肢機能改善と脊髄興奮性、痙縮との関係（後ろ向き研究）

【研究機関】 鹿児島大学病院 霧島リハビリテーションセンター

【研究責任者】 衛藤誠二（リハビリテーション科・講師）

【研究の目的】

脳卒中の運動まひについて、有効な治療法を確立するためには、脳や脊髄で、どのようなことが起こっているかを明らかにする必要があります。脳の変化については多くの報告がありますが、脊髄の変化については、よくわかっていません。

この研究の目的は、脳卒中で手の麻痺がある患者さんを対象に、脊髄の興奮性と、運動まひの状態の関係を明らかにすることです。この研究を行うことにより、運動まひの新たな治療法の開発が期待できます。

【研究の方法】

平成20年10月1日から平成27年10月31日までの間に、鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターに入院され、リハビリを受けた患者さんについて、診療録から、運動まひと痙縮（つっぱり）の評価、手首の神経を電気刺激して脊髄の興奮性を測るF波検査のデータを集め、解析します。運動まひや痙縮（つっぱり）の程度と、脊髄の興奮性との関係を明らかにします。

●対象となる患者さん

平成20年10月1日から平成27年10月31日までの間に、鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターに入院され、作業療法士による運動まひ、痙縮（つっぱり）の評価を受け、手首の神経を電気刺激して脊髄の興奮性を測るF波検査を受けた方を対象にします。

●診療録（カルテ）から利用する情報

運動まひと痙縮（つっぱり）の評価、F波検査のデータを集め、解析します。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院リハビリテーション科の研究費で実施します。企業等からこの研究についての寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒899-6603

鹿児島県霧島市牧園町高千穂3930-7

鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター

講師 衛藤誠二

電話 0995-78-2538 FAX 0995-78-8390